資料2

町民アンケートの結果報告について

公共交通に係るwebアンケートの実施について

豊浦町民を対象として、町の公共交通に係る実態調査のためのアンケートをWEB上にて実施いたしました。

対 象 者 ：豊浦町で公共交通を利用する全町民

調査期間：令和6年9月

啓発方法：町のホームページと町公式LINEでアナウンス、町広報にアンケートサイトのリンクアドレスおよびQRコードを記載した案内チラシを折り込み、啓発を実施。

回 答 数 ：89件

※集計の詳細は資料2-2を参照のこと

アンケートの回答傾向

- Webアンケートという性質上、回答者の年代が**現役世代に偏り**が見られた
- 回答地域は人口構成比率の高い本町地区が中心となっていたが、**大岸地区が17%と人口比率（約12%）より高い回答数**であった
- **回答者のほとんどが免許証、自家用車を所有**しており、町営バス、コミュニティバス等の公共交通を**「利用したことが無い」が84%**との回答であった
- 移動の目的としては**「通勤・通学」が主なものとして54%**、買い物が34%となっており、通院だけを目的としている方はごく少数（2件）であった
- 「通勤・通学」先としては**豊浦町内**が占め、「買い物」「よく行くお出かけ先」としては**伊達市**が大部分を占めた
- 町営バス、コミュニティバスの運行の在り方について、**「普通」との回答が多かった**
- 町営バス、コミュニティバス共に在り方についての回答は、その他以外の回答（「現状と同じ定時定路運行」「自宅や自宅近辺から目的地」「柔軟にタクシー運賃の割引」）の**3つの選択肢が30%前後で拮抗**する回答であった。

webアンケートの自由意見 ①

【町営バスについて】

- 子どもたちの通学手段として、どの学校の子ども達も利用しやすいように改善して欲しい
- スクールバス、子供達が本町に気軽に乗れて適切な時間の運行を希望
- お祭りなどのイベントに合わせて土日も利用できるようにしてほしい
- 全く利用する方がいない場所に停留所があるので、見直してほしい
- 自分には必要ない
- 利用したことが無いからわからない
- この先も利用することは無い
- 朝の運行はスクールバスにしてほしい

【コミュニティバスについて】

- お祭りなどイベントに合わせて土日も利用出来るようにして欲しい
- 委託料が高すぎるのではないかと思う
- 自分たちには必要がない
- 利用したことが無い
- この先も利用することはない
- 町営バスとの違いがわからない
- コミュニティバスの存続を希望
- 豊浦駅、ニコット、コンビニ、病院との交通について、バス等でアクセスできるような体制は維持してほしい

webアンケートの自由意見 ②

【豊浦町の公共交通について】

- もう一歩寄り添った形に変化して頂けるとより良い
- 運行経路や時刻がわかりにくい
- 歩くことが困難な人が増えているが、自宅で暮らし続けるにはどうしたらよいか
- JRの維持をお願いします
- ライドシェアを導入したい
- 保育園の送迎にもバスを出してほしい
- 高齢者にはドア・ツー・ドアのような交通体系が望ましい
- 町民の足替わりには町営バスが必要なので、存続してほしい
- JR、バスも含め公共交通の転換期にある
- バスやJRの運行時間が通勤通学メインに設定されている為、午前中に出かけて自宅に戻れる便がなく不便
- バスの増便や相乗りタクシーなどの導入で利便性が上がるといい
- お酒を飲んだ際の帰りの車が無い
- 町外にも行けるバスやタクシー費用の助成などがあると助かる
- 最低限、豊浦駅は死守していただき、大岸・礼文駅は廃駅でも致し方ない
- 公共交通を必要としていないので、特に関心は無い
- 乳幼児のいる家族でも困っている方が見受けられる

【参考】
令和5年度　豊浦町介護保険計画策定に係るアンケートについて

令和5年度の豊浦町介護保険計画策定時に実施した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」において、回答の傾向は以下のとおりとなりました。

対 象 者 ：豊浦町で65歳以上で在宅生活を送る方の中から無作為に抽出した1,000人から回答
（送付時の65歳以上の人口は2,476人）

調査期間：令和5年7月～8月

啓発方法：郵送により調査票の送付、回収

回 答 数 ：485件（回答率：48.5％）

移動、交通に関する質問の回答傾向

- 外出の回数については、昨年と比べて**「減っている」が25.4%で、「とても減っている」が4.5%**
- 外出の回数が減っている理由については、「足腰が弱くなった・痛みがある」が44.8%で最も高く、次いで「感染症予防のため」（22.8%）が続き、以下「外での楽しみがない」（17.2%）、**「交通手段がない」（17.2%）**の順となっている
- 外出する際の移動手段については、**「自動車（自分で運転）」が54.2%で最も多く**、次いで「徒歩」（35.7%）、「自動車（人に乗せてもらう）」（27.8%）の順となっていて、コミュニティバス（15.3%）、路線バス（10.1%）、町営バス、電車（4.7%）と**公共交通の利用割合はそれほど大きくない**
- 将来に向けた運転免許証の返納については「返納を考えている」が25.4%で最も多く、次いで「初めから運転免許証は持っていない」21.6%、**「返納するつもりはない」20.2%**の順となっている
- 「返納を考えている」と回答された理由として、**「事故が怖いため」が50.9%で最も多く、次いで「運転に自信がないため」26.3%**、「その他」20.4%の順となっている
- 「返納するつもりがない」と回答された理由としては**「買物に必要なため」が80.6%**で最も多く、次いで「通院に必要なため」67.3%、「仕事で必要なため」37.8%の順となっている

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査から読み取れる高齢者の課題

- 外出を控えている理由として「交通手段がない」が一定数みられることから、足腰などの痛みにより外出が億劫になることに加え、**交通手段が無いため閉じこもり傾向になっている**可能性があることから、**転倒や足腰の痛み等に配慮した安全な移動手段の確保**が求められる。

- 運転免許の返納に関しては、返納済み又は返納を考えている人が3割以上となっているが、返納するつもりがない人も2割程度みられる。
  返納するつもりがない理由や運転免許証が無いことで困ることでは、買物や通院などの日常生活に必要な移動を挙げる方が多くみられることから、**公共交通機関を含めた利便性の確保**が必要。

【参考】
令和5年度　障がい者基本計画・障がい福祉計画策定に係るアンケートについて

令和5年度の障がい者基本計画・障がい福祉計画策定時に実施したアンケート調査において、回答の傾向は以下のとおりとなりました。

対 象 者 ：豊浦町在住の「身体障害者手帳」、「愛護（療育）手帳」、「精神障害者手帳」をお持ちの方及び障害福祉サービスをご利用の方、豊浦町在住の障がい児（障害者手帳を所持されている、または町の障害福祉サービスを利用されているお子様）とそのご家族の皆様

調査期間：令和5年7月～8月

啓発方法：郵送により調査票の送付、回収

回 答 数 ：140件（回答率：45.3%）

移動、交通に関する質問の回答傾向

- 外出時の困り事について、**「公共交通機関が少ない（無い）」が29.5%で最も多く**、次いで「列車やバスの乗り降りが困難」22.1%、「道路や駅に階段や段差が多い」20.5%の順であった。

アンケート調査から読み取れる障がい者の課題

- 「外出する時に困ること」について、「公共交通機関が少ない（無い）」「列車やバスの乗り降りが困難」「道路や駅に階段や段差が多い」「困った時にどうすればいいのか心配」という回答が特に多くあった。歩道や公共施設のバリアフリー化を一層進めていくだけでなく、**障がいのある方の外出時におけるニーズについて、さらに汲み取っていく**ことが必要。
- 「必要だと思う障がい者の就労支援」について、「通勤手段の確保」という回答が多くあった。**障がいのある方々の就労につなげるためにも、交通の利便性のさらなる向上**が必要。